

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神作業療法評価学演習		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
幸 信歩 他	C311	shihou.yuki	月曜日 10:30-12:00		
授業の目的・概要	精神機能作業療法において対象者と対象者を取り巻く環境の全体像を把握するための評価を実施できるよう、基本的知識・技術・態度について学修することが本演習の目的である。観察・面接評価および各種検査の方法を学生同士で実施し必要な技術の修得を目指す。また事例基盤型学習を通して事例に対する評価計画の立案・評価を実施し、全体像を把握するまでの流れを体験する。本科目は2コマ連続の計30回の授業で実施する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	精神医学・作業療法評価学において学修した内容を十分に理解した上で講義・演習を受けることが望ましい。授業は演習が中心となるため、事前に教科書を読むなど予習をしておくこと。				
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版/編：能登真一、山口昇、玉垣努、他/医学書院/2017 精神障害と作業療法 新版/著：山根寛/三輪書店/2017 (2冊指定)				
参考書	必要に応じてプリントを配布する				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	対象者とその環境に対する評価の意義を説明することができる			OT (2)、(3)	
②	対象者とその環境に対する評価の計画を立てることができる			OT (2)、(3)	
③	評価の方法を理解し、適切に実施することができる			OT (2)、(3)	
④	評価の結果を記録し、適切にまとめることができる			OT (2)、(3)	
⑤	援助者としての自己の特性について気づきをもち評価への留意点とすることができる			OT (1)、(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：精神機能作業療法における評価の概要について学ぶ [担当：幸 信歩]	講義	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版) P468-477を精読する	1	
2	コミュニケーション構造について学ぶ [担当：幸 信歩]	講義	[事後学習]授業資料を用いた復習	1	
3	面接と観察について学ぶ [担当：幸 信歩]	講義	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版) P478-485を精読する	1	
4	第一印象について学ぶ [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事後学習]授業資料を用いた復習	1	
5	構成的作業評価について学ぶ 箱づくり法 [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版) P246-255、496を精読する	1	
6	興味・役割の評価について学ぶ NPI 興味チェックリスト、役割チェックリスト等 [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事後学習]各評価実施についてのレポートをまとめる	1	
7	投影的作業評価について学ぶ コラージュ法 [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版) P241-255を精読する	1	
8	QOLの評価について学ぶ WHO/QOL26 [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事後学習]各評価実施についてのレポートをまとめる	1	
9	気分・性格・行動等に関する検査について学ぶ① PF スタディ、SCT、ISDA 等 [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版) P494-496、511を精読する	1	
10	気分・性格・行動等に関する検査について学ぶ② PF スタディ、SCT、ISDA 等 [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事後学習]各評価実施についてのレポートをまとめる	1	
11	集団力動の概要について学ぶ [担当：幸 信歩]	講義	[事前学習]教科書(精神障害と作業療法新版) P122-138を精読	1	

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

12	集団評価と集団内個人の評価 [担当：幸 信歩]	演習	する [事後学習]各評価実施についてのレポートをまとめる	1
13	作業遂行特性評価① [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事前学習]教科書(精神障害と作業療法新版)P380-382を精読する	1
14	作業遂行特性評価② [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事後学習]各評価実施についてのレポートをまとめる	1
15	精神症状の検査 [担当：幸 信歩]	講義	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版)P491-492を精読する	1
16	精神症状の検査と薬物療法の副作用 [担当：幸 信歩]	講義	[事後学習]授業資料を用いた復習	1
17	社会生活機能評価について学ぶ① LASMI、Rehab、GAF等 [担当：幸 信歩]	講義	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版)P487-489を精読する	1
18	社会生活機能評価について学ぶ② 社会参加能力観察リスト、日常生活機能観察リスト、精神障害者ケアアセスメント等 [担当：幸 信歩]	講義	[事後学習]授業資料を用いた復習	1
19	作業に関する自己評価(OA-II)について学ぶ [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事前学習]教科書(作業療法評価学第3版)P521を精読する	1
20	評価を実施する「私」を知る、自己肯定感などについて学ぶ [担当：幸 信歩]	講義・演習	[事後学習]各評価実施についてのレポートをまとめる	1
21	事例基盤型学習①(疾患の特徴をディスカッションし、ICF作成) [担当：幸 信歩]	演習・GW	[事前学習]グループワークに必要な事前学習・事後学習(準備を含めて)を各自で行う [事後学習]グループワークに必要な事前学習・事後学習(準備を含めて)を各自で行う	1
22	事例基盤型学習②(必要な評価項目と評価計画をディスカッション) [担当：幸 信歩]	演習・GW		1
23	事例基盤型学習③(発表:評価を模擬患者に実践する) [担当：幸 信歩]	演習・GW		1
24	事例基盤型学習④(発表:評価を模擬患者に実践する)、解説 [担当：幸 信歩]	演習・GW		1
25	高齢期の精神・心理的特徴に関連した評価について学ぶ [担当：榎田 哲弥]	講義	[事前学習]指定された資料の該当箇所を精読する	1
26	高齢期の精神・心理的特徴に関連した評価について学ぶ [担当：榎田 哲弥]	演習	[事後学習]配布資料と講義のポイントを整理する	1
27	認知症重症度、行動症状等の評価について学ぶ [担当：榎田 哲弥]	講義	[事前学習]指定された資料の該当箇所を精読する	1
28	認知症重症度、行動症状等の評価について学ぶ [担当：榎田 哲弥]	演習	[事後学習]配布資料と講義のポイントを整理する	1
29	高齢期のADLに関連した評価について学ぶ [担当：榎田 哲弥]	講義	[事前学習]指定された資料の該当箇所を精読する	1
30	高齢期のADLに関連した評価について学ぶ [担当：榎田 哲弥]	演習	[事後学習]配布資料と講義のポイントを整理する	1
試	定期試験			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	40	10	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	5	0	0	0	55
	思考・推論・創造する力	0	10	5	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	15	0	0	0	15

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	学期末に試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書・配布資料・口頭での説明内容に基づく問題を出題し、理解度を問う。試験は総合評価の 50%に換算する。	試験後に模範解答を提示し解説する。学生は教科書等を参照して要点を再確認する。
	②			
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	評価実施レポートを作成し提出する。 第 5、6、7、8、10、12、14、20 回目の評価実施をレポートとする。レポートは以下の基準で採点する。(総合成績の 40%に換算:各 5%のレポートを 8 回提出) ・評価環境が適切に記載されている。 ・評価報告が適切に述べられている。 ・課題が適切に記載されている。 ・疑問や調べ学習の内容が適切にまとめられている。 ・パソコンで作成し、表紙が付けられている。(レポートの体裁)	提出されたレポートを教員が確認しフィードバックをする。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
成果発表	①	✓	第 21 回～24 回は提示された精神障害事例の情報をもとに、作業療法評価計画を作成し、模擬的に患者に作業療法評価を実施する。評価の意義や患者への関わりにおける留意点などを発表の中で説明できるかを評価する。 成果発表の成績は総合評価の 10%に換算する。成績評価は配布するルーブリックに基づいて行う。	授業でのディスカッションを通して適宜フィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
備 考				
他 担 当 教 員	幸 信 歩、榎 田 哲 弥			
教員の実務経験	本科目を担当する教員は作業療法士として 5 年以上の実務経験を有している。			
実践的授業の内容	臨床における評価治療で得た知見に基づき、実際の評価バッテリーを用いて展開する。また患者の症候や状態を画像・動画などで紹介し、視覚的な学びの手法として学生の理解を促す。			
そ の 他	この科目は 2 時限連続の授業である。評価を学生同士で行うことで必要な知識・技術・態度の修得を目指すため、欠席等で迷惑のかからぬように各自体調管理等に留意すること。 本科目は対面授業を実施するため、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。 なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況など、社会情勢によっては再度シラバスを変更する可能性がある。また、授業形式が遠隔授業となる場合もある。			